

復興成し遂げ次の世代に

佐藤信逸町長が就任して初となる議会定例会が9月1日から9月21日まで開かれ、佐藤町長は初日に所信表明をし「これからの4年間は、施策の真価が問われるとき。『思いやりのある政治』を理念に、歴史あるこの町を、次の世代へ確実に繋ぐため、自身の変わらぬ民間感覚と柔軟な思考でまちづくりを進めていきます」と今後4年間の町政運営の基本方針を述べました。今号では、所信表明の全体を紹介します。



はじめに

本日、平成28年山田町議会第3回定例会の開会にあたり、町長としての所信の一端を申し上げ、今後4年間の町政運営に向けて、議員各位をはじめ、町民の皆様の深いご理解とご協力を賜りたいと存じます。

私は、去る7月10日に執行されました山田町長選挙において、2期目の立候補をさせていただき、多くの町民の皆様からご支持を得て、無投票当選の栄を賜りました。引き続き町政の舵取りをさせていただくことになり、誠に光栄であるとともに、果た

すべき使命と責任の重大さを痛感し、前任期以上に緊張感が湧き、改めて身の引き締まる思いでございます。

初当選からの4年間は、被災して間もない混乱の中、「震災からの復興」という大きな歴史の変革のときであり、町の未来のかたちを決する重要な決断と、難しい判断の連続でありました。議会並びに町民の皆様のご理解とご協力のもと、この1期4年間は「震災からの復旧・復興」を大命題として、全力で取り組み、今、まさに町のかたちが大きく変わろうとしております。生まれ育った故郷、山田町の復興を確実に果たすべく、常に「民間感覚を行政に」の思いと、「山田復活」への挑戦の心を持ちながら走り続けてまいりました。これからの4年間は、まさしく私の施策の真価が問われるときであり、さらに歴史あるこの町を、次の世代へ確実に繋ぐための重要な時期になると考えております。

町の復興を成し遂げるということは、ハード面の整備の完了のみで終わることではなく、そこに住む町民の皆様方一人ひとりの思いと、心の復興を大切にしたいものでなければなりません。そういった意味で、私の今後の

町政運営の基本的な考え方といたしまして、「思いやりのある政治」を政治理念として掲げました。

2期目となるこの4年間は、昨年度策定いたしました、「山田町総合計画」の各種施策をベラスにしながらも、刻々と変わる情勢に、私自身の変わらぬ民間感覚と臨機応変で柔軟な思考をもとに、皆様のご理解・ご協力を賜りながら、まちづくりを進めてまいります。

さて、私は今回出馬するにあたって、次の公約を掲げさせていただきます。

○災害公営住宅への引っ越しの完遂

○復興工事の完遂

○住宅再建への支援

○新斎場の新築移転

○産業振興の支援

○医療福祉の向上

○学校給食センターの建設

以降、各項目について、具体的に述べさせていただきます。